

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成26年11月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670500166
法人名	医療法人 杏林会
事業所名	あんずの家
所在地	鹿児島県いちき串木野市桜町39-1 (電話) 0996-32-8111
自己評価作成日	平成26年10月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あんずの家は、いちき串木野市のほぼ中心部の住宅地に立地しており、周辺の人の動きや近くの公園で遊んでいる子供たちの声が聞こえてきたりと、日常のいろいろな音、におい、動きを直に感じることができる地域密着型のグループホームです。住宅地ということもあり、景観も落ち着いた雰囲気、周りにとけこんでおり春になれば、入り口に植えてあるあんずがきれいな花を咲かせ、また季節ごとに花を植え替え、季節の移り変わりを肌で感じることができるようにしています。あんずの家は、ひと昔の多世代家族のようなもので、職員は20代～60代まで在籍し、お年寄りも70代～90代までおられ、職員と利用者が家族のような和やかな関係を構築しております。また職員は、利用者の方々のペースに合わせて一日がゆっくりと過ぎて行き、その雰囲気や空気が、安心につながるように日々努力しております。また理念通り、あなたがあなたらしく生きて頂くために、今までのあなたを大切に楽しく過ごして頂けるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

いちき串木野市の中心街に位置する当ホームは、季節の花々が咲く中庭とテラスを囲むように造られた2ユニットからなるグループホームである。辺りの一般住宅の中に違和感なく調和した建物である。
自治会に加入し、ホームの通信「あんず便り」を回覧しホームでの利用者の日常生活の様子や認知症についての理解を深める発信も行っている。ホームの夏祭りには地域の子供達との触れ合いの機会もあり、グラウンドゴルフなど地域行事に利用者も参加する事もあり、折に触れ、双方で交流がある。避難訓練には近隣住民10名近くの参加もあり、見守りや誘導の方法などの訓練も実施しており、非常災害時の協力体制も出来上がっている。特に外出支援には力を入れており、ゆとりの人員配置体制でのシフトを多く組み入れる事でドライブや墓参りなどの個別支援も希望に添える様に柔軟に対応しており、ホームに閉じこもることなく、活発に明るく活動してほしいという、開設当初からの運営者の意思がケアに反映されている。
職員は利用者本位に同じペースで傾聴を重んじ常に寄り添うケアを実践しており、「その人らしく」という理念の根幹が全員に浸透し開設11年目を迎え、地域に根を下ろしているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念を職員間で共有し、日々のケアに活かすよう努めている。	毎月のミーティングや日々のケアの中で振り返りの機会を持ち、開設当所からの理念は職員に浸透してきている。理念の根幹にある「ありのままのその人らしさ」を大切にしたい利用者本位のケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	公民館を通じ、行事への参加を呼びかけ、婦人会や子供会などの参加を頂いている。又、火災や自然災害の発生に対し、地域住民の協力を頂けるよう近隣住民参加の防災訓練を計画している。	自治会に加入しており、ホームの通信「あんず便り」を回覧して、日々の活動内容や認知症への理解を深める啓発もしている。地域行事のグランドゴルフの見学やホームの夏祭りには小学生やボランティアの踊り連も参加し恒例行事になっている。防災訓練には地域住民も多数参加し、見守りや誘導の協力体制も出来ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	外部からのボランティアの慰問等も積極的に受け入れ地域の方々との交流を大切にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況やサービス等に関し、都度会議で報告し、意見やアドバイスをサービスの向上に繋げている。又、上記2などに関して会議の場を有効に生かし連携が取れるよう図っている。	自治会長、行政、家族、他の関係機関の出席を得て2カ月に1回の開催である。防災訓練に地域住民の参加を貰い、見守りなどの協力体制作りを議題に上げ、実現化しており運営推進会議が有意義なものになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて相談報告を行っている。その都度丁寧なアドバイス等をいただいている。	年に1回、市の取り組みである「市民講座」に法人全体で参加している。地域包括センターとは都度の相談事も素早い対応をもらうなど、双方の情報交換や連携もとれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、出入口の施錠はしていない。目配りや気配りを心掛け、束縛感の無い生活を送っていたできるように気を付けている。	日頃のケアの中で、気づいた事や疑問はミーティングで話し合いの場を持って、解決に向けている。年間の研修計画はあるが、新入社員も含め、身体拘束に関しての研修や勉強会は行われていない。	言葉、身体、投薬など身体拘束の弊害についての知識や意識を持ったケアは職員にとっては不可欠なものである。研修計画だけに終わらずに具体的な事例やマニュアルを下に研修や勉強会を実施し、職員の資質向上に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めており、現在まで虐待は認められない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用する方がおり社会福祉協議会の担当者と連携を取っている。管理者や計画作成担当者以外の職員は、権利擁護制度については勉強不足であり研修が必要と思われる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書に沿って読み合わせを行い、時間をかけ説明して署名・捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時等に状態報告を行うとともに、ご家族の意見や要望なども伺い、スタッフ会議等で検討している。各ユニット玄関にご意見箱を設置している。	日常の面会時や、年に1回ホーム開催の、家族が参加する敬老会を、要望や意見の聞き取りの大事な機会にしている。利用者から職員へ直接、相談もあり、速やかに対応し日頃から気軽に何でも言って貰える関係を築いている。意見、苦情を外部に表せる機関があることも伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、法人行事や当ホームの季節行事に参加し職員と交流する機会を設けている。 管理者は、月一回のスタッフ会議にて各スタッフから意見等を聴取している。	職員はミーティングなどで現場の気付きやアイデアなど積極的に意見を出し合っている。職員から出されたシフト変更の要望も人員配置を検討し、働きやすい体制でケアに当たる事でサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より事務長へ個々の勤務状態等報告している。職場環境の改善・人材育成に力を入れ離職者の減少に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な研修に参加できるようにしているが、人員の都合等もあり、全職員の研修参加ができていない。 職員の疑問などには、その都度指導回答ができるよう努めている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し定期的に研修やネットワーク作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前にご本人やご家族と面談を行い、生活歴や要望、それぞれ思いなどを確認し安心した生活が送れるように努めている。しかし、本人と家族の思いに食い違いなどがあり苦慮する場面も多い。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の抱える不安にしっかりと耳を傾け、信頼していただけるような関係づくりを心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談を通じてご本人、ご家族の思いを確認し、満足していただけるサービスが提供できるように努めている。しかし、本人と家族の思いの違いに苦慮することも多い。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>その人らしい暮らしが続けられるように、一人ひとりお互い支えあいながら、信頼関係を築けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な情報を共有して、ご本人にとって大切な存在として、面会や外出・外泊等ご協力を頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や知人の面会等が気軽にできるように、また家族との外出や外泊等の希望に添えるように支援している。	通い慣れた美容室にパーマをかけに行く利用者もいる。人員配置にゆとりを持たせ個別支援で墓参りに行く事もあり、自宅へ帰り、馴染みの人達との交流を楽しんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一同に会する機会は、食事やお茶の時以外少ないが2～3人の集まりがあり、それぞれに関係を保っているが、認知力に差があり、負担になる利用者には職員が対応して関係性が崩れないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談に応じたり可能な限りフォローできる体制を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の意向を伺い、また、ご本人の日々の生活の中で表情や言動から心身状況を把握するよう努めている。	意思の疎通が出来る利用者が殆どであるが、難しい場合は、表情や所作から読み取り、声かけを重視しており本人本位な対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしについては、ご本人からはもちろんご家族や担当ケアマネ、身近な介護者から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、出来る事と出来ない事を見極めその人らしく暮らしていけるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活記録に気付きなど記入し、職員間で共有しカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意向などを反映した介護計画の作成に努めている。	個々の生活記録や日々の申し送りで職員全員で利用者の情報を共有しカンファレンスを行っている。本人や家族の意向を踏まえ、家族支援や趣味、趣向を取り入れて個別性のあるプラン作成になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録に日々の様子を記録し、月一回のケアカンファレンスを行い3ヶ月に一度のモニタリングを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時々に応じたサービスが提供できるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>豊かな暮らしを楽しむため地域の公園等を利用している。また、季節ごとに開催される地域行事等への参加に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>可能な限り、希望しているかかりつけ医との関係を継続しており、医師との連携がとれている。</p>	<p>入居前からの掛りつけ医の受診支援をしている。メンタルクリニックの往診や2週間に1回の物療もある。協力医療機関との24時間医療連携がとれており、緊急時の体制も整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師がいない為、かかりつけ病院の看護師に報告相談し、適切な医療や看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された医療機関の主治医やSWの方に相談し早期の退院に向けて受け入れ態勢を整えている。また日頃から情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化に伴う事業所の方向性を説明行っている。また、入居期間中に状態報告とともに今後重度化しても安心して暮らせるように他事業所とも連携を取っている。</p>	<p>ホーム独自で「重度化した場合の対応に関わる指針について」と「終末期の対応に関わる指針について」の文書化と同意書の作成をしている。重度化や終末期の状態でもホームが出来る最大限の支援も含めて、施設や医療機関などへの転院の検討も視野に入れている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアル作成し、冷静に対処できるように周知している。また心肺蘇生法（AED使用方法）の訓練も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を定期的に行っている。</p> <p>また、I-2の通り近隣の方への協力も呼び掛けている。</p>	<p>運営推進会議を通して、地域の各班長に呼びかけ避難訓練への参加を得て、避難の方法や消火器の使い方などの訓練を実施している。水害対策に公民館長の支援の声が上がるなど、地域との協力体制も出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を損ねない言葉かけや対応を心掛けている。しかし、方言の使い方に苦慮する場面もある。	トイレ誘導や失禁時でのさり気無い声掛けには特に配慮し、名前も「さん」付けで呼び、一定の距離を保ち、常に人格や誇りを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けや無理強いをせず、ご本人が自己決定できるようなかかわりに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせて自己決定できるような雰囲気づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	行きつけの美容室やビューティヘルパーの利用など好きなヘアスタイルをしてもらっている。また、服装も出来るだけ一緒に選んでもらうように心がけている。		
40	15	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況に合った食事形態を提供している。また、動作能力を把握し、食事の準備や、片付け等に参加できるようにしている。	メニューはその日の食材や利用者の希望を聞き取り、柔軟でバランスの良い食事になっている。食器や箸は入所前からの使い慣れた個人専用である。利用者もモヤシの根切りや下ごしらえなど、出来る手伝いをしている。行事食や家族との外食など年間を通して食の楽しみを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った食事形態で提供し、偏食等にも代替品にて対応している。また、疾患に応じた食事の提供に努めている。水分補給に対しても個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、磨き残しや義歯装着の確認を含め口腔内の状態の確認をしている。また、就寝前には義歯洗浄剤も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に合わせた下着や排泄用具を使用し、なるべくトイレで排泄ができるように、排泄パターンを知りトイレへの誘導を行っている。	布パンツの利用者が多く居り、排泄パターンやサインを把握し、職員の声掛けや誘導で改善や現状維持に向け、トイレでの排泄の自立に向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に行い、排泄時等腹部マッサージを行い、散歩や運動等も積極的に行えるように心がけている。また、食事メニューへの配慮を行っている。緩下剤の使用については、担当医と連携を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には、週3回で午後からの入浴になっているが、希望があればその都度入浴ができるようにしている。	午後からの入浴時間になっているが、希望があれば柔軟に対応している。順番の希望は皮膚疾患に配慮した対応をしており、利用者は職員との会話を楽しみながら入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や体調に合わせ、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬剤の説明書を個々にファイルし内容把握に努めている。また、処方変更等についてはその都度、申し送りにて周知し状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや皿拭き、調理の手伝い等へ参加している。また、天候に応じ散歩・ドライブや買い物、外食等行い気分転換を行っている。また、レクとしてトランプ等も楽しんでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、ドライブ、外食。その他季節の行事等、ご家族の協力も貰いながら参加できるように支援している。しかし、職員の人員配置により困難になる事も多い。	ホーム周辺の散歩は日課であるが、自分の肌着などの買い物に出掛ける利用者もいる。海岸線のドライブや季節により紅葉やコスモスを観に出掛けるなど、個別支援にも力を入れている。全員に声掛けをして、出来るだけ多くの外出の機会を実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事業所の金庫に預けている方がほとんどである。買い物や外出時は、財布を持ってもらい自分で支払をする機会を持つように心がけている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を書かれる方は少ないが、電話はいつでも掛けられる環境を作っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは、天井も高く明るく壁には、季節に合った装飾品を飾り季節感を出している。夏場は、西日が当たるためすだれ等で工夫している。</p>	<p>利用者の憩いの場であるリビングは天井が高く、木のぬくもりが感じられる広々とした造りである。利用者の身長に併せた椅子や立位が容易なソファが沢山設置され、利用者は好みのコーナーでゆったりと過ごしている。季節に合った壁掛けや飾りつけなどをし、ガラス越しに中庭に咲く花からも季節を感じ取れる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングで過ごされる方が多く、利用者同士楽しく会話したり、たまには言い合いしたりと良い関係が出来ている。また、その時々で部屋で過ごしたり一人の時間も楽しんでおられる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンス、家族写真、テレビ等ご自宅でも使われていたものや馴染みのものを持ち込んでおられ、個性的な部屋になっている。</p>	<p>ポータブルトイレ使用の利用者の居室は、畳の一部をフローリングに替えるなどの工夫をしている。使い慣れた馴染みのドレッサーやタンス等で居室の色調を統一している利用者もおり、ぬいぐるみや家族写真を飾るなど個性豊で安心できるプライベート空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>見渡しがよく広い造りになっており、床や居室の出入り口にも段差がなくバリアフリーになっている。日中は施錠せず開放的。庭の花をいつでも摘んでくることができる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない